

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン当初の理念に、地域密着型となった際、地域社会の一員として地域に溶け込んで生活できるよう支援することを追加した。修正の際、職員全員からアンケートをとって決めた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り時、所内に掲示した理念を皆で唱和して、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入居時に良く説明し理解していただけるよう努力すると共に、理念の実践である日々の活動を知らせる「アルプスだより」を家族に郵送している。地域の方には行事に参加していただいたり、地域の行事に参加した際に理解していただくよう努めている。	<input checked="" type="radio"/> 日々の活動の中で、更なる理念の浸透に努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に農作業をしている人や散歩している人に気軽に挨拶や声かけをするようにしている。近所の人がお花を見に誘ってくれたりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼会等のホームの催事に近所の方々を招待して交流を深めている。地域のボランティアや保育園児の訪問も積極的に受け入れている。地域の敬老会に出席したり公民館の催し物などに参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の見学や相談に応じているほか、研修生や中学生の職場体験等を積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全体会議で強調し、自己評価表は多くの職員の意見を基に作成している。指摘された「取り組みを期待したい内容」については具体的な改善策を立てて全体会議で徹底を図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、「アルプスだより」を活用して状況を報告し、ご意見やアドバイスをいただいている。入居者と談話することもある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	太田市元気おとしより課や包括支援センターを訪問し、アドバイスをいただいたり情報交換したりすることに努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の実例を通じて学んでいるが、さらに必要な人が出た場合を想定してよく勉強したい。	○	カンファレンスで勉強会を開きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法とマニュアルを寮母室に閲覧できるようにしており、全体会議でもしばしば取り上げて防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書および重要事項の説明を行っている。家族の疑問にも十分な説明を行い納得をいただいた上で契約のサインをいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見、不満を言い出せる雰囲気を作っている。月1回2名の太田市介護相談員にもお願いし、入居者の要望をフィードバックしていただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム新聞「アルプスだより」で全般的な生活ぶりを報告している。個人の報告は、月1回利用料の支払い時や面会時に行っている。特に健康状態などに変化があった場合は、速やかに家族に連絡している。また、3か月ごとのケアプラン更新時には良く説明しサインをいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の体制を整備し、責任者と苦情受付担当者を定めて家族には繰り返し説明している。また、第三者委員を選任し、家族会等に参加していただき意見を聞く機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケアカンファレンスで職員の意見や提案を求めるほか、日頃からユニットリーダーを通じ意見を吸い上げて対応している。	小旅行や納涼会などの催事の計画は職員が中心になって計画している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕ある職員配置を心がけると共に、必要な場合は、会社全体(3ユニット)で勤務の調整を図っている。事務所の職員も応援している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限度に抑え、離職の場合は利用者によく説明すると共に、引継ぎの期間を十分とって利用者のダメージを防ぐようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市の各種研修には交代(希望者も募る)で参加させている。特に認知症介護実践者研修を重視している。参加者には全体会議で報告や演習をさせ、研修内容を共有するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に積極的に参加し、サービス向上委員会主催のグループホームを相互に訪問して行うレベルアップ研修は質の向上に大いに役立っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の誕生日に会食をしながら悩みや希望を聞く機会を設けている。また、年数回懇親会を開いている。朝食、昼食は入居者、職員と共にとり、気軽に会話する機会としている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎日出勤し、職員の行動や日誌を点検するなどにより状況の把握に努めている。自己啓発の推進により、介護福祉士資格の取得者も増えている。資格取得に対しては給与に反映させている。	各資格取得者の手当があり、永年勤続表彰を考えている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人と面接し困っていること、希望などを良く聞く。アセスメントを十分に行い本人に満足してもらえる支援方法を考えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から事情を良く聴取し、ホームとして対応できることを良く説明して契約を結ぶようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援があればできる限り対応するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安がある場合には、通所介護(共用型)や短期で利用で様子を見ることも努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活暦や趣味などを理解し、一緒に作業したり、教えてもらったりしている。料理の下ごしらえや味付け、なつかしの歌や家庭菜園など。山菜などの調理の仕方を教えてもらうことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為の協力関係を築く為、面会時には必ず家族の方と話す機会を持ち、あるいは電話を使いお互いの要望を良く話し合うよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には食堂や居間で十分な時間を過ごしていただき、外出や外泊などが自然にできるように働きかけている。家族会合同の小旅行や納涼祭を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所など要望を聞いて散歩や買物の行く先を決めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝の掃除や配膳・下膳などお互いに協力しながら自分ができることを行っている。ラジオ体操の案内放送も当番を決めて行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族には退居後も相談や支援に応じる旨伝えている。退居後も病院訪問を継続するなどしている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から話し合いや行動の観察から個人の思いや希望の把握に努め(担当者を決めている)、ケアプランに反映させてその実現に向けて支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや家族の面会時、本人との会話の中から把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居期間の長い利用者が多く、一人ひとりの生活パターンがよく把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	十分なケアチェックをもとに担当者が原案を作り、計画作成担当者がまとめて、ケアカンファレンスで職員に意見を求める。家族に説明して、要望があれば修正してサインをいただいている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が変化した場合は、即刻ケアプランの見直しを行っている。変化が見られなくても3か月ごとに見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別の介護日誌にケアプランの短期目標を記入しておき、1時間ごとに記録をつけ日々モニタリングしている。受診時に医師に見ていただくこともある。家族から要望あればいつでも見ていただけるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護(共用型)や短期利用の要望に応じている。訪問介護ステーションと業務契約を結び、医療連携体制をとり、終末ケア対応の準備をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議委員になっていただいている。地域のボランティアや保育園児には定期的に訪問を受けている。消防署には定期的に消防訓練と救命訓練の指導をいただき、図書館からは本やビデオの貸し出しを受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所時のケアマネジャーとは継続して連携をとるようにしており、必要に応じて相談している。特養入所などについても支援をおこなっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを訪問し、指導を受けた。権利擁護についても必要に応じて相談している。実地指導を通じても協働を深めて行きたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力いただき、かかりつけ医に継続して受診できるように配慮している。ホーム側からもかかりつけ医に指示を仰いだり、報告相談するよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	協力医療機関の太田市蕨塚本町国保診療所を主に受診し、認知症に関する相談に応じていただいている。家族にも本人に必要な場合には専門病院(県立精神医療センター)に受診することも勧めている。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	訪問看護ステーションと業務契約を結び、週1回看護師の訪問を受け、健康チェックと相談にのってもらっている。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院中は職員が病院を訪問し、病院関係者と情報交換し、早期退院の準備をしている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	医療連携体制により終末期ケアができる準備をしている。アンケートにより、その時にならないと分からないという家族が多いが、早めに話し合いをしていきたい。	○ 全員で勉強し、準備を進めたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	心構えだけはできているが、対象者がいない為、まだ具体的な事例はない。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居の前の聞き取り調査や契約締結時に十分な情報交換をするようにしている。使い慣れた食器や家具を持ち込んでいただき、ダメージを防ぐようにしている。他の施設に移る際は、情報提供書を提供している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	”適切でない”言葉かけや行動に対しては、その都度注意を与えるほか、全体会議等で具体的な事例を挙げながら、しないよう注意喚起している。秘密保持に関する誓約書を職員の入所時に提出させている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	やさしい会話で希望を聞きだし、選択肢を提供してできるだけ自己決定するよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重して支援している。朝から一人で散歩に出る人、自室で休むのが好きな人、テレビの好きな人など。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各自の好みにまかせているが、美容師の資格を持つ職員がおり、毛染めなどの希望にそった支援をしている。化粧をきちんとしている方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせて調理や配膳・下膳、箸配り、おしぼり配り、テーブル拭き、食器拭きなどを行っている。	○ 食材などの買出しの機会を増やして行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望によりビール、飲み物、飴などを提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等個別に支援している。できるだけ紙パンツから普通のパンツに替えることを試みている。排尿排便のサインを見逃さないようにしてトイレ誘導に心がけ、失敗時には他の入居者に分からないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日と時間帯は定めているが、希望があれば異なる曜日の入浴にも対応している(他のユニットでの入浴も可能)。夏場のシャワーは随時できる。夜間入浴は実施したが、希望者がなく今は中止している。熱湯好き、ぬる湯好きなど入浴習慣を理解して対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の活動を活発にしている。日中の静養は個室でできるし、夜間必要な場合は眠剤の活用も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の歌を好む人、ビデオで昔の歌や映画を好む人、時代劇を好む人など一人ひとりの楽しみごとに配慮して支援している。町の図書館を利用して、本やビデオのレパートリーを増やしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さを家族に説明し、お金を用意していただいている。管理能力のある方には現金を所持していただき、難しい方にはホームで預かり金銭管理表で管理している。家族にレシートと残高を随時確認していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、必ず戸外に出て外気浴したり、ホームの周囲を散歩したりしている。一人でふらりと散歩に出る人もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1回家族と一緒に遠足やその時期の花見や展覧会に車で行くことを皆さんは楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の投函等の支援をしている。利用者から家族への電話は事務所の電話を利用している。利用者が手紙を投函する喜びを共有し支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居間や居室でお茶を飲みながら歓談できるよう配慮している。また、電車を利用して面会にこられる方には駅までの送迎をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針である。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室と日中の玄関は鍵をかけないようにしている。時間帯(食事を作る時間、入浴時、事務所に人のいない時など)によって玄関に鍵をかける場合がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員一人が必ずフロアで行動を見守り、夜間は巡視と監視カメラで安全確認をしている。居室で過ごす時間が多い人には、洗濯物を届けたり自然な口実を作り、訪室している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	マニュアルで薬や刃物など一定の物品の管保方法を決めているが、個人の能力に応じ生活上必要なものは自己管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防訓練時に消防署員の指導で心肺蘇生法を習っている。転倒防止の為の足の強化訓練、食事形態の工夫など個人別に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	前期の消防訓練時に心肺蘇生法を習っている。AEDの使い方も習った。医療連携体制の訪問看護ステーションとは24時間体制で相談できるようになっている。東毛ブロックの「救命処置、応急手当の基礎知識」講習にも参加した。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防避難訓練を消防署の指導の下で実施している。訓練には近隣の方にも参加いただいております。緊急の場合の協力をお願いしている。緊急連絡網を作り事故発生時に備えている。		近所でぼやがあった際、駆けつけてくれた人や電話をくれた人がいて、地域の方の協力を感動した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては家族と良く相談し、対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変に気付いたら、速やかに家族と管理者に伝え、看護師等に相談して対応策を考える。介護日誌に記録し、申し送り事項とする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを個人ファイルに保管し、職員が交代で薬係になり、薬の目的などを理解するよう努めている。新しく処方された薬の効き目や症状の変化が見られたら、医師に速やかに連絡するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	状況に応じ水分摂取量の調節や運動量を増やし、場合によっては医師や訪問看護師に相談しながら下剤の使用量、回数を調整している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き粉と歯ブラシによる口腔ケアを行っている。就寝時は義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に食事の摂取量を記録している。水分についてはポットに麦茶、お湯を用意し、いつでも飲めるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板を毎日消毒するなど、マニュアルを作って励行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは広く取り、花のプランターを配置したり、野菜畑を作って、入りやすいよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に合った利用者の作品を飾ったり、行事の写真を展示している。水彩画数点は地元の絵画倶楽部の好意でお借りし、時々掛け替えをいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファを置き一人でもリラックスできる場所になっている。冬場はコタツを作ってくつろぎの場となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただくようにしている。畳しか生活習慣のなかった方には、畳を敷いて対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は窓を開けて自然換気をすることを習慣にし、状況に応じてこまめに窓を開け閉めしている。空調は、状況に応じて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、トイレ内も車椅子が入れるようになっていることにより利用者の自立が図れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に手作りの表札をつけている。テーブルや椅子にも名前を貼って、見分けられるようにしている。食器や箸にも必要に応じて名前をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に木製ベンチを配し、日向ぼっこや休息に使っている。外周にはプランターに季節の花をそだて、野菜畑では野菜を栽培し利用者が手入れをいながら収穫を楽しみにしている。中庭の芝生には自由に出入りできウサギを飼育している。毎年ツバメが巣を作るのを楽しみにしている。		ウサギの餌くれ、野菜の収穫は利用者をお願いしている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がストレスをためないように、1日2回体操と外へ出て散歩するようにし、何事も利用者と職員が一緒におこなうなどコミュニケーションを十分にとるよう努めている。また、会話の中から本人の希望を聞き取るよう心がけ、希望にそった支援ができるよう努力している。